

令和 5 年度

学校関係者評価委員会報告書

評価対象期間

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 3 1 日

評価日 令和 5 年 7 月 2 日

学校法人 大麻学園

四国医療専門学校

令和5年度 学校関係者評価委員会報告書

令和5年7月20日

学校法人 大麻学園 四国医療専門学校
学校関係者評価委員会

四国医療専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和4年度自己点検・評価報告書」に基づき、以下のとおり、学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

I. 学校関係者評価の目的

本校は、教育の一層の充実と教育水準の向上を図り、学則第1条の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動その他の学校運営等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに、教育活動その他学校運営の状況に係る外部評価を実施することを目的とする。

II. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、本校の「令和4年度 自己点検・評価報告書」を基に『文部科学省 専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って実施することを基本方針とする。

III. 学校関係者評価委員〔敬称略〕

- ・地域住民の代表者
谷川 俊博（宇多津町長）
- ・学校と関連のある高等学校関係者
上杉 敬治（香川県立丸亀城西高等学校 校長）
大平 徹（香川県立飯山高等学校 校長）
水兼 博士（香川県立琴平高等学校 校長）
- ・保護者代表者
三谷 景子（看護学科学生の保護者）
- ・卒業生代表者
橋本 純（鍼灸学科卒業生）
島 かおり（看護学科卒業生）
- ・業界団体の役職者
宮武 功哲（一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会 会長）
大塚 安混（一般社団法人香川県鍼灸師会 理事）
高橋 司（公益社団法人香川県柔道整復師会 会長）
田岡 知代（一般社団法人香川県理学療法士会 理事）
若林 佳樹（一般社団法人香川県作業療法士会 理事）
安藤 幸代（公益社団法人香川県看護協会 会長）

IV. 学校関係者評価委員会 議事録

- ・開催日時 : 令和5年7月2日(日) 13:00～14:35
- ・開催場所 : 四国医療専門学校 3号館講堂
- ・出席者

委員: 谷川俊博(議長)、上杉敬治、大平 徹、水兼博士、三谷景子、橋本 純、島かおり、宮武功哲、大塚安混、高橋 司、若林佳樹、安藤幸代

学校役職員:

大麻正晴(学校法人大麻学園理事長)、大麻陽子(四国医療専門学校 副学校長)、山下久美子(同)、小森元章(学校事務局長/進行)、襖田和敏(鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科 学科長)、山本幸男(柔道整復学科 学科長)、高橋謙一(理学療法学科 学科長)、松本嘉次郎(作業療法学科 学科長)、入江和子(看護学科 教務主任)、六車輝美(看護学科 学科長)、

山川公彦(学校事務局 入試・広報部長)、大野幸重(学校事務局 学務部学生支援課長/書記)

- ・欠席者 業界団体の役職者: 田岡知代(一般社団法人香川県理学療法学科 理事)

学校役職員: 後藤修司(四国医療専門学校 学校長)、青木みゆき(学校事務局 学務部長)

・議事の経過及び結果

1) 開会

事務局より、開会を宣する旨の発言があった。

2) 理事長挨拶

大麻理事長より、委員の皆様に対し本委員会出席に対する謝意があり、次いで創業者が学校基本理念に込めた思いについて説明があった。最後に、今後更に入学者に選ばれる学校になるために、令和4年度の自己点検・評価に対し、忌憚のない意見・提言等をお願いしたいと挨拶があった。

3) 学校長代理挨拶

当日、都合により急遽欠席となった後藤学校長に代わり、大麻陽子副学校長より、皆様から頂く貴重なご意見を参考にして、今後、より良い学校作りを目指したいと挨拶があった。

4) 委員会成立確認及び議長選任

事務局より、委員12名の出席をもって本委員会が成立したことを報告した。

また、「四国医療専門学校 学校関係者評価委員会規程」第3条第2項の規定に基づき、委員による互選の結果、谷川俊博委員が議長に就き、挨拶を述べた。

5) 報告書及び関係資料の説明

事務局より、本校の「令和4年度自己点検・評価報告書(第2版)」及び「事務関係資料」について、概要説明を行った。

議案の審議

1. 令和4年度自己点検・評価について

議長の指示により、事務局より、本校の「令和4年度自己点検・評価報告書」に基づき、教育目標と本年度の重点目標の評価、基準1、基準2、基準3-1、4-1、5-1、6～10に係る、その概要と要点について、説明を行った。

また、入試・広報部より、基準7の学生募集活動と入学者選考について、説明を行った。

以上の説明を受け、議長より、委員に対し発言を求めたところ、次のとおり意見・質問があり、学校側から回答を行った。

1) 退学者防止のための学生支援、就職支援及びSNSを活用した広報活動について

- ① 退学者について、資料を見ると目標には届かなかったものの、昨年度に比べると退学者数が減少している。最近は人間関係の構築が難しい子供が増えており、学校としてどのような支援をされているのか教えて欲しい。
- ② 就職支援について、高校側として、出口問題は重要であり、自分の教え子が卒業後資格を取ってどこに就職したかは気になる点である。就職支援をどのように行っているのか教えて欲しい。
- ③ 広報活動について、最近は高校現場でも生徒集めが難しいと感じており、今の高校生はホームページをあまり見ない中で、InstagramやTikTok、YouTubeなどのSNSを活用し、どのような広報活動をされているか教えて欲しい。

○本校からの回答

- ① 学業についていけず退学になる学生の防止策としては、1年生の早い時期から国家試験の内容に照らし合わせた試験を行い、現在の学びの到達度や課題の抽出をすることで初期の段階から面談などのフォローを行っている。
 - ・ 退学理由で最も多いのは学力不振であり、学力支援に注力している。次に多い心理的理由の場合は、心的状態に至る一つ前の人間関係に悩む学生には、早い段階で教員が間に入って調整したり進展すれば臨床心理士に協力いただくなどしている。
 - ・ 職種的に優しい学生が多い傾向があり、悩みのある学生には早めに担任が面談を行うなど、対応している。状況をみてスクールカウンセラーの紹介、更に問題が好転しない場合は心療内科の受診を促すなどし、早い段階で学生のストレスを減らすようにしている。
 - ・ メンタルヘルスの問題について、通信制の高校からの進学者は集団に馴染めない傾向がある。教員の介入が難しい場合もあり、クラスメイトを通じて声掛けをするなど工夫している。メンタルヘルスを抱えている学生は過去にも同様の経験があり、カウンセリングを嫌う傾向があるため、クラスメイトに協力してもらいながらカウンセラーに繋ぐ努力をしているが、課題は多いと感じている。
 - ・ 精神的な対応としては、他学科と同じく早めに教員が対応し、カウンセラーに繋ぐようにしている。学業不振者について、看護学科は電子テキストを導入しており、ICT担当教員がフォローするなどし、学業に専念できる環境作りに学科全体で注力している。
- ② 就職支援については、2、3年生を対象に6月に就職説明会を実施している。

また、外部実習を行うことで現場の仕事に直接参加し、業務内容や自分の適性を理解することで就職後、企業とのミスマッチを防ぐようにしている。

 - ・ 就職支援について、近年理学療法士の数は充足しつつあり、内定の時期が少し遅くなった感はあるが、それでも就職率は100%であり、今後も継続できるよう支援しているところである。
 - ・ 求人数は十分来ているが、病院の就職試験日と本学の実習期間が重なる場合があり、今後は調整が必要と考えている。だが今のところ概ね順調に資格取得者については就職出来ている。
 - ・ 就職支援について、一人一人個別に希望を聞いて対応している。現在は売り手市場のため、就職は問題なく出来ている状況である。ただ、複数社から内定をもらい決めかねる学生もいる。

- ・ 就職については、全国的な看護師不足の背景から現状問題ないが、国試対策も合わせて行っていく必要があると考えている。

また、看護学科では、全員が九州保健福祉大学の併修制度をとっており、本学卒業時に同時卒業することで、学士として、その後、認定看護師や専門看護師といった、よりレベルの高い看護師へのステップアップへの道も容易になっている。

- ③ 広報活動について、募集学科によって対象の年齢層が異なり、資格の認知度も異なることから、小・中学生向けのイベントを行うなどの取り組みを行っている。

また、対象者に、直接声が届く高校内ガイダンスや進学相談会などに積極的な出席を行っている。SNS の活用については、効果的な情報発信を行うことで、より高校生に届きやすい工夫を行っている。

2) 卒業生・在校生の声・支援、多方面の教育・他の分野への選択肢の広がりについて

子供は今年入学したばかりだが、入学後、勉強面のフォローだけでなく精神面のフォローもしていただいていることに親として安心している。

また、娘が高校生の頃、進学先を四国医療に決めたきっかけは、オープンキャンパスで卒業生や在校生の声が聞けたことが参考になった。

カリキュラムについて、九州保健福祉大学との併修により、看護師の勉強だけでなく、多方面の教育をしていただいていることで、就職後、看護の仕事が継続できなくなっても、他の分野にも選択肢が広がっていることも親として良かったと思える点である。

○本校からの回答

九州保健福祉大学を卒業し、学士を持っていることで給与面を含む待遇に違いがあり、また社会福祉主事として社会福祉施設で働く者もあり、大学併修は意味があると考えている。

3) 定員充足率低下の要因について

令和4年度の鍼灸マッサージ学科の定員充足率が80%ということで、100%にならなかった要因は何か。

○本校からの回答

- ・ 他の学科と比べ入学者の幅が広く、上は60歳、下は18歳であり、全方位を対象とした募集は難しく、今後は対象者年齢を絞った広報戦略を練っていきたい。
- ・ 補足させていただくと、事務資料の入試・広報部作成の「年度別 学科別・所属別（高校生・社会人）入学者数比較一覧表」の鍼灸マッサージ学科の高校生・社会人の割合によると、年度により変動もあるが、近年、高校生の割合が63%と増加している傾向もある。

今後、高校生に鍼灸マッサージ学科への志願・入学を働きかけ、高校生へのアプローチを考えていくことも重要である。

4) 業務の効率化・委員会組織のスリム化への対応について

報告書P4 業務の効率化を図る上で、委員会組織のスリム化を図ったとあるが、具体的にどのような点に気を付けながら何を行ったかを教えて欲しい。

○本校からの回答

- ・ 紆余曲折はあったが、委員会数の集約、電子システムの導入等、教員には教育活動に注力して

もらえるように工夫した。

- ・ 臨地実習指導の引率教員に対して、遠方実習への移動時間を勤務時間とみなすことで勤務時間の短縮を行うなど工夫している。
- ・ 補足しますと、看護学科では、同僚性を用いて、業務を気軽に頼める・引き受けるなど、教員間の関係性を密にすることで、業務の省力化を図っている。具体的には、学科内会議を全員参加で行うなど話し合いの場を大切にしている。

○各委員からのご意見・要望等

5) SNSの有効活用、相手（患者）に信頼される学びの習得及び学生への指導について

ホームページやSNSは効果的に発信することで素早く対象者に情報伝達できるツールなので、学生募集だけでなく業界の認知度向上などに今後も有効活用をお願いしたい。

また、知識や学力も大切だが、本当に大切なのは相手（患者）に信頼されることであるため、学生の内に習得できるようにお願いしたい。

我々の仕事は『患者に触れて手を以って治す』仕事であり、今後AI化が進んでも絶対に無くない仕事だと思うので、資格ごと盛り上げていけたらと思う。

6) 学生のコミュニケーション能力の向上、対人能力の向上を目指した教育指導について

コロナ禍により十分な実習が出来なかったことも原因と思われるが、患者とのコミュニケーションが苦手な学生が多い印象がある。今後は、国試対策と同様に対人能力の向上を目指した教育も必要であると思う。

7) 学生の職能団体への参加依頼について

県師会では月1回勉強会を行っている。ぜひ学生も積極的に参加していただきたい。来年は香川で学会があるので、学生を招待したいと考えている。

8) 学生の職能団体への加入推奨依頼について

学校へのお願いとして、ここ数年コロナ禍により十分な会の研修会など実施が出来なかったが、卒業後はぜひ職能団体への加入推奨をお願いしたい。

新卒加入者が定着することで組織力の向上にも繋がると考える。

9) 職業感・職業に対する自覚を持つての卒業、教育指導の依頼及び企画事業への協力依頼について

看護師を目指して学校に入学し、学びを積み、夢を叶え就職したのに、長く続かない。

まだまだ離職率の高い業界である。ぜひ学校の中で職業観・職業に対する自覚をもったうえで卒業するよう教育をお願いしたい。

看護協会では、毎年、中・高校生を対象に『ふれあい看護体験』を実施している。学校に企画してもらおうようにはなるが、学校を知ってもらうPRにもなると思うのでぜひ協力をお願いしたい。

2. 教育・学校運営に関する意見交換（ご意見・ご提言等）について

議長より、各委員に対し意見・提言を求めたところ、次のとおり意見等があった。

1) 高校生への国家資格の優位性の伝達依頼について

我々委員は、全員が有資格者であるが、高校生には、まだまだ資格の認知度は高くないと感じている。ぜひ高校の先生方には、生徒さんに資格の優位性をお伝えいただくようお願いしたい。

2) 国家試験合格率100%の達成、お互いの切磋琢磨、学生の成長及び学生募集の強化・尽力について

高校生が専門学校に進学するというのは、その後その資格を持って就職することが目的である。

それゆえ、国家試験合格者を100%に近づけていただけると、高校生が学校選択する際に、より四国医療を選択されるのではないかと。

学生募集が厳しいとの話があったが、多くの学生の中で互いに切磋琢磨する方がより個々の成長があると思うので、今後さらに学生募集を頑張っていただきたい。

3. 閉会

議長より、議題はすべて終了し、本委員会の閉会を宣する旨の発言があった。

【学校側の対応】

各委員の皆様から賜りました貴重なご意見・ご提言等を参考にさせていただき、今後、再度点検のうえ、学生募集、学生教育、学生指導、教育活動、教育の質の向上、国家試験対策、就職支援及び学校運営等の改善などを図り、より良い学校作りを目指して、教職員一同、日々努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

以上